

(道徳)

「自尊心を高め、互いに思いやる心豊かな子どもを育てる」

大阪市立巽東小学校

1. 研究主題設定の理由

本校では、学校教育目標を「豊かな心をもち、主体的に取り組む、たくましい子どもを育てる」とし、日々の教育活動を行っている。

昨年度の学校アンケートや全国学力学習調査質問紙の結果から、学校に来るのは楽しいと感じている児童がほとんどではあるが、自分には良いところがあると感じていない児童が多いなど自己肯定感に乏しい現状があることがわかった。そこで、他者との関わりを大切にしながら、互いに思いやり、高め合う中で、より豊かに心を育てていく必要があると考えた。加えて、来年度の学習指導要領の改訂では、問題解決的な学習を取り入れるなどの指導方法の工夫を図ることなどが示され、「考える道徳」「議論する道徳」への転換を図るものとなっている。また、評価を充実することも挙げられている。来年度からの「特別の教科 道徳」の全面実施に向け、本校でも道徳教育の充実・改善を図っていきたいと考えた。

そこで、研究主題を「自尊心を高め、互いに思いやる心豊かな子どもを育てる」とし、道徳の時間を要として研究を進めていくこととした。

2. 研究の趣旨

新学習指導要領で示されている目標は、「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」である。研究の1年目である本年度は、この新学習指導要領もふまえながら、道徳の授業で何を大切にすべきなのか、どのように授業づくりをしていくと子どもの学びにつながるのかといった基本となることを考えていくこととした。そこで、大阪総合保育大学の藤田善正先生に研修をしていただいた。その時の内容を基本として本年度の取り組みを深めていく。

3. 研究の概要

(1) ねらいとする価値をはっきりとさせる

子どもたちは、資料を通して、道徳的価値について考えを深めていく。私たち指導者は、道徳的価値について考えを深められる授業をしていく必要がある。そのためにも、資料研究をしっかりと行わなければならない。そこで、図1¹⁾のようなポイントで資料研究し、ねらいとする価値をはっきり

- ・主人公はだれか
道徳的変容を遂げたのは
- ・道徳的論点(内容項目)は何か
変容がある場合、前後の情報はるか
- ・山場(場面・ことば・行動)はどこか
変容が起きたところ
- ・助言者・援助者(きっかけ)は何か、誰か
自分の良心か、他者か
- ・発問(内容的資質を育てるために)
心(こころ)を問う

図1 資料研究のポイント(大阪教育大学名誉教授 藤永芳純)

させるようにする。

(2) 授業前後の子どもの様子や考え方を意識する

授業前の子どもの様子や考え方を把握しておく。また、授業を終えた子どもの様子や考え方がどう変容していて欲しいのかを想定しておく。これらを意識することで、どのような授業を構成するのか、どんな発問をするのか等を考えていく軸となると考える。

(3) 授業展開と主発問を考える

① 授業展開の工夫

新学習指導要領では、「考える道徳」「議論する道徳」への転換が述べられている。また、問題解決的な学習を取り入れるなどの指導方法の工夫を図ることも示されている。そこで、前述のように、資料研究をしたことをふまえ、授業構成を考え、展開を工夫していく。

② 発問の工夫

今回の学習指導要領の改定の経緯では、これまで読み物の登場人物の心情理解のみに偏った形式的な指導が行われる例があることなど、多くの課題が指摘されていると述べられている。そこで、資料の特性に関わらず、登場人物の気持ちを考えるような発問に終始する授業に偏ってしまうことがないようにしたい。扱う資料に合わせて、登場人物の気持ちを考えることが有効なのか、そうでないのかを先述の資料研究を通じて考え、ふさわしい発問の工夫をしていく。

(4) 評価を考える

道徳が教科化されるに伴い、評価をどうしていくのかも考えていかななくてはならない。1時間の授業で子どもがどのように育つのか、資料を通して学習し本時のねらいに気づけている、考えを深めている、～しようとしているといった姿が成長した姿となると考える。そこで、書いたもの、話したこと、聞いている様子などをもとにこれらの姿がみられるかを評価していく。

4. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

○発問の工夫では、なぜ主人公がそのような行動をしたのか、転機となった人物のすごいところはどんなところなのかなど、自分の考えを出し合い、話し合えるものを取り入れ、ねらいとする価値にせまっていくことができた。

○動作化を取り入れる、挿絵などの掲示物の工夫をする、ICT 機器の活用などいろいろな授業展開の工夫をすることで、話し合いを深めていくことができた。

○授業の中で、どのように評価するのか考え、共通理解を図ることができた。

(2) 今後の課題

○「考え・議論する道徳」に向けてのより良い授業づくりについて研究を深める。

○通知表や指導要録に記載する評価についてさらに研究を深める。

参考・引用文献等

¹⁾ 藤田善正(2017)『考えることが楽しくなる道徳の授業』日本教育研究センター p.59-60